

## 令和5年第1回名張市快適環境審議会会議録（概要）

1. 開催日時 令和5年2月15日（木） 午後2時から4時まで
2. 開催場所 名張市役所2階 庁議室
3. 出席者  
委員 朴 恵淑、益満 亮、佐野 茂樹、矢間 孝司、福廣 勝介  
事務局 地域環境部長 吉岡 恵子、環境対策室長 野口 泰弘  
環境対策室職員 上角 健将、津田 志穂、出口 佳奈
4. 欠席者  
委員 近藤 恵美、川合 哉
5. 内容
  1. 地域環境部長あいさつ
  2. 委員紹介
  3. 会長及び副会長の互選
  4. 議事
    - (1) 第三次なばり快適環境プラン達成状況・実施状況報告
    - (2) その他

1. 地域環境部長あいさつ
2. 委員紹介
3. 会長及び副会長の互選

[会長に朴恵淑委員、副会長に益満亮委員就任]

#### 4. 議事

##### (1) 第三次なばり快適環境プラン達成状況・実施状況報告

[資料 第三次快適環境プラン【R4 達成状況・実施報告書】の説明]

#### 【意見等】

##### ○委員

5ページの温室効果ガス対策についてですが、昨年度の審議会においてゼロカーボンシティ宣言をしてはどうかというご提案があったかと思いますが、その後進捗状況はいかがでしょう。

##### ○事務局

ゼロカーボンシティ宣言は、全国の自治体で進められているところであり、名張市におきましても、宣言する方向で事務的にも進めさせていただいているところです。

##### ○委員

ぜひとも、一日でも早く宣言をして頂きたいです。全国の自治体の中でも遅れる事になるので宣言を先に行ってください。国連の会議でも先に宣言を行い、宣言をしてから内容を後から考えています。先に宣言を行い、その後色々な部分を噛み合わせてシステムを作れば良いので、よろしく願いいたします。

#### ○事務局

以前より、宣言についてご意見を頂いていること、日本人の約99%は、ゼロカーボンシティ宣言をした自治体に住んでいることから焦りがありましたが、何かきっかけが欲しいと思っており、来年度に市庁舎のLED化を考えておりますので、そういったものをきっかけとし、市長の方にも話をさせて頂いているところです。

#### ○委員

2019年12月15日に前三重県知事は、脱炭素宣言を東海3県の中でいち早く脱炭素社会ミッションゼロ2050を宣言しました。2019年12月15日には、ほとんどシステムなど出来ていなかったです。2022、2023年には、2030年までにマイナス47%を達成する宣言をしました。一日でも早く宣言をし、意思表示をしていく事は、良い事だと思います。

#### ○委員

農業業界では、3年ほど前から温室効果ガスの排出について、水田から発生する農地由来のことがすごく話題になっています。名張も田んぼが多く、合わせて畜産も盛んだと思います。また、この2、3年で話題になっているのが、牛のゲップ問題です。牛のゲップに含まれるメタンは二酸化炭素の25倍もの温室効果があります。東北の方では、牛のゲップ問題に対する取組みをされているところもありますし、ゲップの出にくい餌の開発の取組みも話題になっています。名張は、伊賀牛や伊賀米もあるので見逃せない話題なのかなと思います。市民の生活レベルで取り組むべきなのかなと思います。このようなことも、多少視野に入れておいた方が良いかなと思います。

#### ○事務局

貴重なご意見ありがとうございます。今後、関係部署と検討した中で、進めていけるところから進めていきたいと思っております。

#### ○委員

5ページの土壌汚染についての指標ですが、土壌汚染における鉛含有量（八幡工業団地周辺）は、鉛に特定されているのは何か理由がありますか。

#### ○事務局

鉛でなければならない訳ではありませんが、土壤汚染物質の代表的なものであることから、鉛を当初の快適環境プラン作成時に指標としているものと認識しています。

#### ○委員

私の認識も同様で、たくさんの項目がある中で、鉛は分かりやすい一つの項目です。知っている話では、変電機が大量に不法投棄された場所があり、そこが水道水源に繋がる敷地内でした。県が大量の資金をかけ、5年がかりでやっと基準値に近くなったそうです。他では、PCBとかの含有量を入れたりするところもありました。

#### ○委員

防災についてですが、地震等の災害に備えをしている市民の割合について、数値として下がっているのが気になります。私どもは、川の管理をしています。最近雨の降り方が変わっている、災害が激甚化しているなどと言われています。たまたま名張市では、大きな災害が今は無いだけで、河川改修が進めば、安全になるかと言われればそうではないです。黒田の方で引堤工事をやっていますが、それが完成すれば災害が無くなるわけでは決してありません。昨年であれば、名張市の宇陀川でも、安部田の方で橋が倒壊しています。小さい災害はいくつかあります。大きな災害がないだけで、皆さん実感が無いのかなと思いました。

最近では、木津川上流河川事務所と名張市との取り組みで、マイタイムライン講座を先週行いました。台風などの災害があった場合、自分の行動を時系列にし、どのように行動したらよいかを考える自分の行動計画をマイタイムラインと言いますが、そのマイタイムラインの講座を先週名張市と行い、市民の方にも何十人か参加して頂き、マイタイムラインをどのように作成したらよいかを気象予報士の方に解説してもらいました。そういった取り組みも非常に参考になると思います。

33 ページ 5-2-3-1 に防災のことで訓練をされているとありますが非常にいい事だと思います。訓練しなければ実際に行動に移せないなので訓練はとても大切です。その訓練の中に、マイタイムラインを作って自分の身は、自分で守ることを考えて頂きたいと思います。

#### ○事務局

ご意見ありがとうございます。危機管理部局とも、共有を行っていきます。

#### ○委員

昨年に川上ダムが出来たのですが、それが出来たから洪水が無くなるわけで決してはないです。想定外はあるので、最悪は自分の身は自分で守る「自助・公助」のところも大切にしてほしいなと思っております。

## ○委員

高齢者も多くなってきていると思うので、避難する際に頭では分かっているけど、体が言う事が聞かないという時に、同じ防災でも違ってくると思いますので、そういった備えもお願いいたします。体の不自由な方や、高齢の方の対応についても常に行っているということの見える化をしてもらいたい。

## ○事務局

ありがとうございます。名張市の特性として、一時期に団地が出来きて人口が増えたので、一時期に高齢化に突入するという形になっています。まさにこれから、高齢者のまちになりつつあるという事です。そのため、国の方では、個別支援計画を立てるようになっており、なかなか進みにくいですが、福祉部局と危機管理部局、それから地域環境部では、地域づくりを窓口にしていますが、各部署が一緒になり、助けが必要な方に手が届くように、助けられるようにといった計画の方も順次進めようとしています。

## ○委員

4ページの工場・事業所への立入調査回数（三重県と合同）のところですが、お声掛け頂ければいつでも一緒に行かせて頂きますのでよろしくをお願いします。

また、職員のレベルアップという事で、高齢化となる中、職員の減少する中、環境をどう守っていくのかを継続的に学んでいける体制を県内9つの地域防災総合事務所の環境室長が集まって年間研修計画を作成しており、3月に完成予定です。それを基に来年度実行し、PDCAで回っていくような形で職員教育に力を入れております。もしよければ、そこに参加して頂く事も可能かと思えますし、一緒になって共に歩んでいけるようなことが出来ればと思えますので色々お声がけを頂ければと思えます。

## ○委員

4～6ページの報告をお聞きし、それに対する質問感想もありますが、普段から環境で感じていることも含め、まとめて話させていただきます。

いま最高にうれしいのが、街中にある水路に小魚がたくさんいる事です。これは、川の会で三十数年花筏を浮かべていますが今年最高です。長期間上水の水路を止めるとき、少しでもいいから水を出してほしいとお願いをしています。以前は、難しいと言われてましたが今は流れています。そのため、魚が白いおなかを出して死ぬこともないです。

次に、名張川引堤事業で竹の堤の最高の環境の景色を失うことに対して本当にいらしています。ちなみに、名張まちづくり協議会では、エコロードといって竹藪管理を市が行ってくれていますが、木津上流河川事務所もたまに来てくれています。安全は、もちろん大事ですが、日々の自然環境が劣化します。今一番はらはらしているところで

す。

次に、環境の中でも社会的環境に重きを置いていまして、私の住んでいる旧町は、コミュニティを持続していけないです。空き家が増え、高齢化どころか、人がおりません。隣のまちとの合併まで思案するような。これを私は、空き家ならぬ、「空きまち」と呼んでいます。旧町は、旧ではなく、求めるまち「求町」。「空きまちの求町」をテーマにしております。

皆さんは、ご存じでしょうか。佐賀市は、有明海の海苔の生産量が今まで日本一でしたが、落ちた時期がありました。それを下水道の処理水を、有明海の海苔養殖期の冬場に合わせて、この窒素やリンを含む栄養塩を多く流すことにより、美味しくなり海苔養殖日本一に貢献しているそうです。

我が家は井戸を持っています。近所にも井戸を持っている家がたくさんあります。災害協力井戸の届はしていますが、この井戸を活用、復活する事を考えてほしいと思います。

私は、公募委員の一人ですが、若返りと公募委員がもう少しの方が良いと思います。良い人材たくさん知っています。

名張市のごみ分別冊子はとても良いく、分かりやすいです。高齢者は、紙の方が見やすいのです。

ワークショップなどと言った横文字は、高齢者には分かりにくい。分からないので行かない。出来るだけカタカナを使わない、分かりやすい日本語を使ってほしいです。

景観計画といった目標があると思いますが、私は、環境の最終の目標は景色だと思っております。暮らしが景色を作る。自然に優しい、自分に優しい、良い暮らしをしたら景色が良くなるのは当然です。

日本語にすばらしい言葉があります。それは、「もったいない」です。「もったい」とは、ことの本質ということですが、それが無くなるということです。「もったいない」という言葉をもっと使ってほしいです。

以前より提案をしています、川ごみネットワークと言ったものがあり、拾ったごみの量を報告すると、全国の川ごみの様子がどんなものかが分かります。全国ネットになるとすごくいいと思います。ごみを拾いに行った時に実感するのは、クリーン大作戦などで拾っているのは上流のごみになります。名張地区は、少し下流の梅が丘・大屋戸・月ヶ瀬でのごみ拾いを提案したいです。

ごみの減量について、一人当たりの量が減ったとっていますが、ごみ収集の運搬車を見ているとごみの嵩が高いように感じます。小さくして捨てるなどの減量をして、運搬車を減らしてほしいです。

資料にあるようなこれだけの良い取り組みを、名張市民は知らないと思うので、名張環境新聞などを年に1、2回でも出したらどうかと思います。

フードロスの話ですが、帯広アイヌの話で、アイヌは物を残さない、捨てない。活動地域での生産量で生活できる人しか増やさないと。人を増やすのが目的ではなく、こ

の地域の生物生産量、ポテンシャルの中でしか人を増やさない。帯広アイヌ 900 年持続しているという話を聞きました。

名張市は、出前トークがすごく良いと思います。たくさん色々な出前トークをしていますが、もう少し環境教育でフィールド学習をしてほしいです。

名張市の地域産物のコーナーですが、すごく良いです。あったらみんな選びます。名張産をもっとアピールしてもらえたらと思います。

外来生物問題がありますが、最近の新聞で見たのがオオサンショウウオの記事です。前々から思っていたのですが、雑種オオサンショウウオを食品化しようということです。元々食べていたので、ふるさと納税をしてくれた人の返礼品などにしたら、他には絶対ないと思います。

伊賀南部クリーンセンターの見学会を、積極的に提案をしてほしいです。

5 ページに、文化財の項目と、景観の項目が一つになっていますが、項目に違和感があるので項目を分けたらどうかと思います。

防災の話が出ましたが、環境の悪化は長期的災害だと思っています。

行事やイベント等がコロナ禍で縮小とありますが、コロナ禍で縮小、簡素化されたまま定着して元に戻っていないです。復活はさせないといけないと思います。

意識調査については、具体的なデータを出してほしいです。一覧表でも作ってもらいたいです。

## ○委員

3 点確認とお願いをしたいと思います。

1 つ目に、広報についてです。名張市は、今ここが優れているとか、ここが困っているとかを多様な市民に発信できるよう、あらゆる PR が出来る手段を駆使して広報をしてほしいです。分かりやすく見たいところが出てくる HP や広報紙などを作ってもらいたい。講演会や講座など、行けなかった人も見てもらえるようなツールを作してほしいです。少しでもアピール方法を変えませんか。良いものは更にパワーアップを行い、出来ていないところは、少しずつ皆の力で変えていきましょう。

2 つ目に、素晴らしいと思うのは、名張市の廃棄物対策において一人当たりのごみ排出量が他の市町より頑張っています。それを、名張モデルとして行い、レベルを落とさないために皆で協力を行ってほしい。ごみに対しては、市民全員が専門家で、プロで、なんでも出来るようなムーブメントに見える化をして頂きたい。

3 つ目に、快適環境プランの 51 ページに 4 R となっていますが、R の一つのリフューズの断わるとは、発生抑制のファーストステップなので、3 R で完結出来ます。他の所では、4 R、5 R と言われていますが、今は、3 R プラス R です。このプラス R は、リフューズではなく、リニューアブル、再生可能です。サーキュラーエコノミーを意味しています。循環型の社会を作るという事で、英語が分かりにくいようであれば、循環型の持続可能な社会を作る名張でもよいと思います。

後1つ、省エネです。カーボンニュートラル社会に行くために、家電製品を何十年も使うのではなく、エネルギー効率を高めるため、家電製品の買い替えを進めませんか。高いものになるので、経産省から省エネ家電について補助金があると思います。三重県が第二弾をします。制度の内容は、省エネや金額によって変わりますが還元してくれます。他の市町でも動いているので、名張もやってみてはどうですか。

#### ○委員

補足です。第一弾が令和4年11月～令和5年4月まで新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金で、制度の高い省エネ家電を購入した方に対して、キャッシュレスポイントなどで交付するキャンペーンを行いました。その第二弾を今年度の予算で行い、年度末から開始する予定です。交付金を活用する場合、名張市で上乗せをした形で交付金を活用して、新たなメニューを作って頂ければと思います。

#### ○委員

省エネとしては、二酸化炭素に換算するとたいしたことはないかもしれませんが、参加の方がいなかったのが、この施策を作り100名の方に活用して頂ければ、達成が100%になります。このように上手く活用してもらいたいです。

#### ○委員

他の補助金のところでは、電気自動車の補助を三重県で来年度予算として考えております。EVの充電ステーション、FCVの水素充電ステーションの設置やEV電気自動車の購入の補助金です。条件として、市町の補助がある所に上乗せをするといった形となりますので、まずは市として取り組んでいただきますよう、ご検討いただければと思います。

他にも、三重県の方で太陽光発電の補助金が令和6年度もあります。太陽光発電設備と蓄電池の導入に必要な設備を補助する事業をさせていただきます。一般家庭のものになり、蓄電池のみの活用も出来ます。こちらも市の要綱で謳っているものになりますので、市の積極的関与が必要になってくると思います。個人向けとなっていますが、その他に共同購入といった形での補助金もあります。事業者を絞りまとめて買い付け、安く購入し提供する事業も行っています。スケールメリットがあり、3割引ぐらいになるかと思います。今年度、1900世帯ぐらいの応募がありました。令和6年度も実施予定ですので広報等で協力頂ければと思います。

#### ○委員

事業所の補助金もあればと思います。工場の屋根も広いですし、PCB対策で被災の際、地域の避難所も兼ねられないかなど、石川の被災地の話を聞いていたら、そういった事も大事だと思います。

## ○委員

伊賀庁舎で、PPA 事業としてカーポートの屋根に太陽光パネルを設置する工事を行っています。災害があっても外部電源が取れるようにもなっており、避難してきた方に電力の供給が行える体制を取れるようにしたいと考えています。

この取組は、電力会社より電力を買い取る形態（PPA 事業）です。その為、電力会社が太陽光パネルを設置し、電力会社が県に電力を売ることになります。設置した太陽光パネル等の施設管理も、電力会社が行います。屋根貸事業に近いものです。自ら太陽光パネルを設置し、売電も少なくあまり儲からないといったデメリットが生じるので、使用する電力を補うものです。

名張市でもアイデアを出していただき、脱炭素先行地域への募集をしてもらいたい。三重県では、脱炭素先行地域がどこもありません。志摩市は、重点対策加速化事業に選定されています。国は脱炭素先行地域を 100 ヶ所ぐらい選びたいとの事ですが、三重県で応募しても採用されていません。そこを事業者とも連携をしたり、地域脱炭素移行再エネ推進交付金といったものを活用して、地域の意向に合わせた交付金を作っていくなどのアイデアを持っていくと、候補として挙げて頂けることもあるかと思えますますので、検討いただくようよろしくお願いします。

## ○委員

2050 年の達成に合わせて、事業所も長期的な計画の中に織り込もうとしているのですが、自分のところの事業で、実際にどのくらい二酸化炭素を排出しているかといったところからになります。それをもっと簡単に出せるような方法ないのかなと。大きな事業所にはそれなりの人数もいますが、1、2人でやっているところもあります。スタートするには、まずどれくらいの量があるのかを出すことから始めないと始まらないです。その辺を、簡単に指導いただけるような何かがあればすごく広がりやすいです。

## ○委員

計算する方法はあるのですが、生産の部分なのか、職員の通勤等も含めるのかなど大変悩ましくあります。生産に限られているものからあります。燃料や電気代など、運輸部分のガソリン代などといった事から算出してもらいます。事業のところから含めると、ガソリンからの排出量を見ていくところになります。従業員を含めると、またガソリンを加算していく必要があるのかなと思います。1、2人で行っている事業者に限っては、燃料代に限ったらいいのではないかと思います。

## (2) その他

### ○事務局

〔次年度審議会の説明〕

以上